

寺
こよみ

四 月

一日 十一時半 お講・下村

十時 本山助成会
一時半

一二日 雪ん子劇団新学期

団員募集中 月謝無料

一六日 お講・栗虫

二四日 花かざり



二五日 お寺の学校修了・入校式
慶びの春 花の誕生会
赤ちゃんの初参式を行
います。申込み受付中
受式料三千円。

寺報 善巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

第 17 回

慶びの春 花の誕生会

初参式、チューリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。

四月二十五日 午前十時より



いつでもどこでも一人ぼっちの時でも君のこと見守っているよ—大合唱する雪ん子たち

四月八日はお釈迦様のお誕生日。佛教徒である私達は皆んなで釈尊をお偲び申しませう。三枝充恵著「佛教入門」から釈尊の一代記を書いて見ましよう。ヒマラヤの山麓が広大なインド大平原につらなるあたり、現在のネパール領に釈迦族の小国があり、その王族のひとり浄飯王の長子として、ゴータマ・シッダルタは生まれました。誕生直後に母と死別し、亡母の妹が王妃になってこの養母に育てられることになりました。ゴータマは少年時代、王族にふさわしい教育を受け安楽な生活のうちに十六才で結婚し、のち一子(男)を得ます。しかしゴータマは、幼いころから思索にふけることが多く、二十九才のとき、いっさいを放棄して出家し一介の沙門となりました。南下してガンジス河畔に二人の仙人を相ついで訪ねて道を求め、それから六年間断食をふくむ苦行にはげみます。しかし身心の衰弱と消耗とに対する反省から苦行を捨て、ブツダガヤのアシユヴァッタ樹(菩提樹)のもとで冥想の日を送ります。ついにゴータマにさとりが開かれ(成道という)、ブツダ(覚者)となります。

釈尊一代記

さとりを得た釈尊は数週間の躊躇逡巡のち、ようやく説法を決意しかつて苦行を共にした五人の住むベナレス郊外のサルナートに向います。ガンジス河を渡り二百余キロの道を過ぎ、サルナートのミガダーヤ(鹿の園、鹿野苑)において最初の説法(初転法輪という)をおこない五人は最初の佛弟子となりここに佛教が誕生しました。

以後の釈尊はつねに遍歴遊行の旅にあつて、多数の苦しみ悩む老若男女に触れ、さまざま面白いや訴えに、しばしば比喩をまじえながら親しく適切に答えて居ります。かれらの大部分は信者となり、なかには出家し受戒して佛弟子となっています。

出家の釈尊と佛弟子は、まったく無一物でありはろきれを合わせて身にまとい、朝ごとに在家信者に食を乞うて得られた食事午膳ただ一回でした。四十五年に及ぶ長い旅の末に釈尊は王舍城から北上して最後の旅に出る。その方向は生れ故郷をさしているが途中のクシナラ郊外の沙羅双樹のもとに平安な入滅を迎えたのは八十才のときでした。

住職 雪山俊之

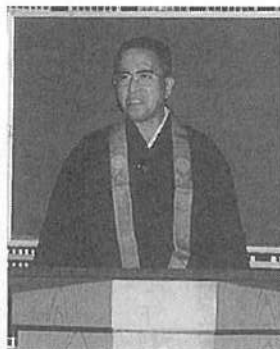
空華



ご本典

行信教教授

瑞夢師



みなさんこんばんは。先だって、隆弘さんの年忌にあたりましてよせて戴きましたが、この空華忌には、はじめてよせていただきました。私達の学問いたしております学派の、最初のかたであります明教院僧鑑師とおっしゃるこの大先哲のおいでになられた所へ参らせていただいたという事は、私にとりましては大変光栄に思っております。私も成人して大分年をとってから行信教で利井鮮妙和上の塾へ参って浄土真宗の御法義を少しばかり学ばせていただいた

たんでありますが、少しずつ本を読んで参りますと、本派にはたくさんの方々がいますけれども、その中でも、この空華学派の所で勉学をなさしてもらった機会にめぐり逢えたということ、今日非常にうれしく思っております。だんだんと究めてまいりますと、この空華学派は僧鑑師から始まって、道穩、柔遠、善護、鮮妙というような先哲方の究めてくださいました学説が、親鸞聖人の浄土真宗のご法義に最も適切であるように私自身は味わっております。他の学派が悪いと申すわけではありませんが、従来からございました聖道仏教の理論なんぞと比べていかなさってござるのでありますけれども、この浄土真宗というご法義は、仏教のなかでも聖道門の方々は別途の法義を開闢された宗教でありますので、それを極めてござるのがこの空華学派だと、こう私は味わっております。ですからここにまいりまして、自然に私の申します事が、

空華学派の先哲方が伝えてくださいましたご法義に沿っておるのじゃないかと思っておりますので、そのつもりで話をいたしたいと思っております。ところで、ここへ参らしてもいいということとは、深い因縁があることでありましよう。時々福井の鯖江と言っております。参らせてもらってはおりますけれども、あちらの方からこちらの方へかけては、昔から北陸門徒と言言葉で聞いておりましたけれども、そういう非常にご法義の因縁の深い所にお育てにあずかっておられます皆様方に対して、私が申します事が誠に浅はかなものでありますから、恐縮ではございますけれども、初めてまいりましたことでもありますので、この浄土真宗の最も大事なこと、これはなんとしても心得ておなくては信心決定ということにもなり得ませんから、そのことを、初めに申しあげたいと思っております。このことは、どこへまいりまして、初めて参ります所ではいつも申し上げておるんであります。

だんだんと時代に合ったようにも変遷しておるわけでありましてけれども、この教え自身は変わって参っては困るんであります。て、いつの時代になっても、これだけは一つはつきりと私達が心得ておかなければならないということだと思っております。そのことを申し上げていきたいと思っております。

それは、みなさんも御存知のよう、この浄土真宗という言葉であります。これはもちろん宗門の名前ということであることは、間違いありませんけれども、しかしながら親鸞聖人御自身は、宗門の名前という意味ももちろんありますけれども、宗義、教義をあらわした言葉だという意味でお使いの場合も多々あるんでございます。この言葉は御存知のように御本典の一番最初、先程拝読いたしました総序の御文、それから次に教巻から始まっていくんですが、その教巻の一番最初に「つつしんで浄土真宗を按ずるに二種の回向あり」という言葉から始まってまいります。ですから、浄土真宗というこの法門は、親鸞聖人をご開山として今日まで私達が受け継いで参っておるんでありますけれども、親鸞聖人御自身が最初に「つつしんで」とおっしゃるお言葉からしますと、親鸞聖人自身が、自分が開いた宗派、宗旨ならつつしんでという言葉もあわないと思うんであります。そうでなくて、「つつしんで浄土真宗を按ずるに」というおっしゃるところには、実はこの浄土真宗という言葉は、親鸞聖人のお師匠様、法然聖人のお開きくださいました教義というふうになるんであります。このところも一つ心得ておきまさんと、親鸞聖人のご信心と私の信心も変わったものになってしまつてはなりませんから、そのつもりで私が最初にこの言葉を申し上げておるんであります。親鸞聖人のご法義はこれのお師匠様法然聖人とは離れられないのであります、といえます。このご本典の一番最初の題号、これは実は教行信証と申しておりますけれども、正式には『顕浄土真実教行証文類』とおっしゃるんであります。これは浄土の真実の教行証をあらわす御文を集めたものという言葉であります。これを略して教行信証というておりますけれども、題号は実は教行証文類とこうなつて、信がないんです。これはどういうことかと申しますと、実は法然聖人の教学なんであります。法

然聖人の教が教行証という三法なんであり。ところが三法のなかの、この行は何をあらわしているかといったら、これは法然聖人ですから念仏往生ということであり。ですから、親鸞聖人のお書物なんだけれども、このご本典というのは法然聖人のご法義を註釈なさったものなんであり。ですから、そう言う意味では親鸞聖人は法然聖人の教、すなわち念仏往生という教え、これから離れることはできないであります。そしてその内容が実は教行信証となっているんです。御存知のように最初に浄土真宗を按ずるに二種の回向ありとして、一つには往相、一つには還相とされており。そして、この往相の中に教、行、次に信が入れているのであります。題号の教、行、証という三法でございますが、それは法然聖人の話してくださった教義には微塵も疑いをさしはさむ余地はありませんという信心を入れてあるの、教、行の行は念仏往生、この事を離した信ではないということなんであり。この地方ではどうでしょうか、この浄土真宗には行がないというのは寂しいということという人があるんではあませんか、ああいう

ことはもつてのほかであります。あれはある意味では浄土真宗をばかにして誹っている言葉ではないかなと思うんでありますけれども、そういうことを言う人もあるくらいであります。ということは、大いに親鸞聖人のご法義を誤って伝えられて、受け取っておるのではないかしらと、思うんであります。こう言うところからみましても、親鸞聖人は、お師匠様の行、念仏往生を離すためではなくて、その念仏往生の中から信心というのが出てきたというあらわしづりが親鸞聖人のご信心ということなんであり。そこで、お師匠様の念仏往生ということと、親鸞聖人の信心正因ということとは少しも変わらないと言うことを頭わされたのがこの「教行信証」という法門なんであり。ご本典はこういう形になりまして、教とはどうか、行とはどうか、信とはどうか、証とはどうか、それぞれ、巻を別にして頭わしてくだされておるんであります。

(この講話は昨年十一月五日の明教院僧館師二百十回忌法要『空華忌』にご出講いただいた折のもので、この後数回に亘って掲載いたします。)

脚本家 多地映一氏 隆弘師の志継ぎ歎異抄完成へ

第2444号

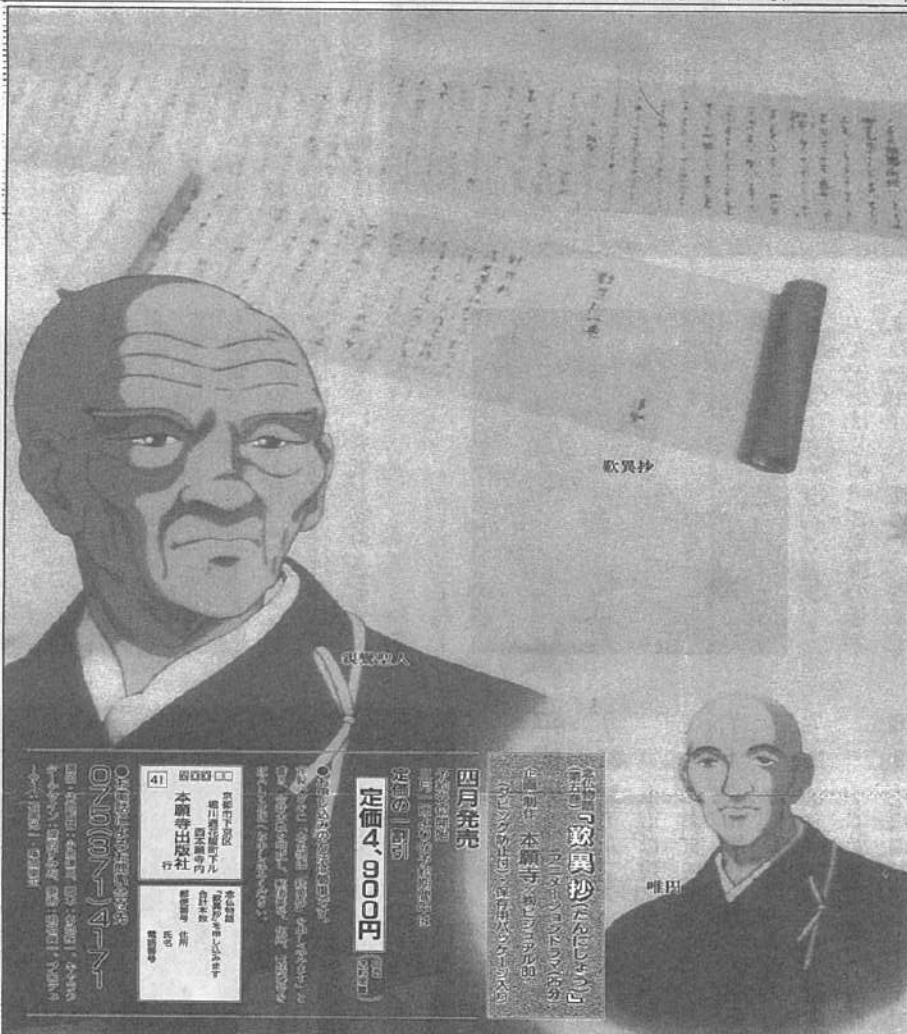
第3編第2巻第1号

本報寺新報

1993年(平成5年)2月20日 土曜日

【企画広告】

(4)



ビデオアニメ 念仏物語 歎異抄(たんにしよ) (第五巻) 親鸞さまと唯円

親鸞聖人の他力念仏のみ教えとお人柄をもっともいきいきと伝えている『歎異抄』—— わが国だけでなく、世界中の人々に深い感動をあたえつづけている『歎異抄』をついにアニメ化!!

親鸞聖人の直弟子であった唯円は、同じお念仏の教えを受けながら聖人の信心と異なる人のあることを歎き、聖人の教えの真実を世に伝えようと、お言葉を一つ一つ書きとめて『歎異抄』と名付けました。師匠の立場ではなく、同じ念仏者の視点から語られる親鸞聖人の法語と、悩みを糧としてより深いこの世の視野を聖人によって広げられていく唯円の姿をドラマチックにアニメ化。子供も大人も、家庭やお寺で、子供会や仏壇、仏壇などあらゆる場所で幅広くご利用いただけるアニメーションドラマです。

定価4,900円

四月発売

ONLINE 41 本願寺出版

雪ん子劇団 感動の一年

平成四年度の雪ん子劇団は十二名の卒業生を送り出して、幕をおろしましたが、十三年間の劇団史の中で最も多忙な一年でした。六月の上市公演にはじまつて、石川県での国民文化祭、YKKの国際会議場、岐阜の門信徒大会を経て、三月二十八日の春の公演まで、何と一年間に十六回の公演をこなし、一万人をこえる方々に夢と感動をお分けしました。砺波の小学校から感動的な作文を送っていただき岐阜では、涙と感激の客席の中を握手せめになりながらお別れしました。子供達には一生忘れられない思い出となるでしょう。各地でさまざまな方々から、こうして熱烈な歓迎をしていただきける雪ん子たちは本当に幸せです。今回はそうした方々の暖かいお手紙などを集めてみました。

少年少女の皆様へ

三月七日岐阜市民センターに於いてのすばらしい演技の数々殊に一口落語仲々の好評、久し振りに腹の皮がゆるみ楽しく聞



かして戴きました。人を笑わせることは並大抵ではつとまりません。泣くは人生笑うは修業とか今後の高齢者には笑いが何よりの名薬だと思います。皆様この道にも大いにお励み下さいませ。

あなた達よい先生に恵まれ他県にない誠によい「雪ん子劇団」の一員として誇りを忘れずに邁進して下さる様陰ながら応援しております。

親愛なる皆様へ

篠田富貴子 六十九才

前略

先日はご遠方の所、ようこそ岐阜へお出で下さいまして素敵なショーを観させて頂き有難うございました。約束の日から半年、待ちに待った雪ん子劇団初めての公演に胸おどらせる私でした。



小さな子供達の凝刺とした一生懸命な姿に目頭の熱くなるのを覚えました。特に手話での表現は大変意義深いものがありました。劇の内容、一口落語、現代のリズム感に溢れたミュージカルほんとうに素晴らしいものでした。さすが評判の雪ん子劇団だと思えました。大勢の子供達を引率されての文化活動はほんとうに

うにご苦労様と申す以外に言葉がありません。

先生の何かの目的に向って一生懸命な前向きな行動力にはほんとうに頭が下ります。先生の生々としたお姿を見ていると私も頑張らなくちゃ!!と希望と勇気が湧いてきます。これからもお身体には十分気を付けられまして私達に勇気と安らぎを与えて下さい。

三宅幾子 合掌



◆ ◆ ◆

女先生はじめ、ご家族の皆様さまのおかげで、初めて、雪ん子のお伴をさせて頂いていただきありがとうございます。奈緒が入団してからでも、何度となく観る同名の劇、でも一回毎に幕が上がると思ふるいし、ハートから水滴がこぼれるのを感じる私です。バスの中、宿泊所の子どもたちと先生方を見守りながら、先生方とめぐり逢わせていただいて良かったと感謝で一杯です。世話やかせの親より



平成四年度劇団活動録

- 6・21 北アルプス文化ホールで上市母親クラブ三十周年のお祝いに
- 7・4 立山町民会館に一杯集った保育所の子供たちに
- 7・19 ジャパンエキスポ富山、「ふるさと万華鏡」初日に
- 8・9 庄川ふれあいホールでは午前・午後二回公演を
- 8・22 第二十四回雪ん子劇団定期公演
- 8・26 高岡別院会館ではとけの子どもの集いに
- 9・6 今年二度目の立山町民会館では立山町中央小学校が親子で観劇
- 11・1 文化庁主催の国民文化祭の為一泊三日で石川県小松へ。他劇団との交流も



びつくりした雪ん子劇団

正直いうと、初めは、とって

◇ ◇ ◇

雪ん子げきだんを見て
私が見て一番すてきなあと
思ったのは、「にわとり」とさ
かはなせ赤い。」です。これ
を見て一つべん強しました。それ
は、「自分のことより人のこと
を考える。」ということです。
まだ、私には、むずかしいこと
だと思えます。それをにわとり
さんがしたのです。にわとりさ
んはきつと、ほくよりうさぎさ
んの方が大切なんだと思つた
と思います。これからその気も
ちでいきたいです。それからま
だ体そうやげきを見せてくれま
した。とてもすばらしいおど
りやらく語、ドラマを見て、私
はとってもすてきなあと、思
いました。 青木 まゆ子

◇ ◇ ◇

前略

雪ん子達の元気できびきびと
したすばらしい演技に大変感動
しました。

私共も子供達の観劇の様子を、
横から見えておりまして各学年ご
とにいろいろな表情をして劇を
観賞しているのが印象的でした。
低学年の子供たちは、雪ん子
達の力一杯の演技に目をキラキ
ラさせて見ていましたし、中学
年は劇中の音楽にあわせて、体
を動かしたり、手拍子をしたり、
積極的に劇に参加していました。

◇ ◇ ◇



高学年は落語の落ちも判ったよ
うで大笑いしていました。

又、「雪ん子しませんか」で
は子供達のみならず、保護者席
の父兄も参加して、まさに演者
と会場が一体となった気がしま
した。私共の子供達にも一方的
なおしつけの企画ではなく、み
んなで楽しんだという思い出に
なっただけだと思います。

あおやぎPTA
会長 池田徹夫

◇ ◇ ◇

雪ん子劇団公演について

雪ん子ははじめて観させてい
ただきました。劇の内容もさる
ことながら、劇団として、と
てもすばらしいと思いました。

一人一人が、自分の役割に責任
をもって、やっている。みんな
気持ちを一つにして、観てる我々
は、のめり込むことしかできな
かったと思います。さすが基礎
練習をやり続けている劇団員は
みんな声を通して、うまい
と思いました。プロでさえマイ
クを使ったりするのに。舞台上
に立つということは、とても勇気
がいることです。そして、劇団
員は、みんな自信に満ちた顔
（表情）をしていました。雪ん
子”は、それを、劇を通して、
自分を高めているのだというこ
と、何んでもいいから、自分
を試めす”機会を大事にしてい
てほしいとおもいます。

砺波北部小 一父兄より



あり刺激を受けました
11・6 YKK五十ビル国際会議
場で文化講演会

12・6

滑川南部小学校からご招
待。劇団員岩城恵理子さ
んの学校で皆大はりきり

12・13

県民会館で毎年行われる
愛の年末児童大会には今

1・17

富山県中央児童館のオー
ブン記念に

1・31

七年ぶりの砺波北部小学
校の観劇態度はさすが。

2・21

富山市柳町小学校の百二
十周年記念に招かれまし
た

3・7

岐阜市民会館での門信徒
大会。千数百人の観客が
万雷の拍手を

3・28

第二十五回定期公演で十
二人の卒業生を送り出す

春の 総代会 3・20 教化推進協議会

善巧寺春の総代会は、三月二十日、教化推進協議会と合わせて開かれました。

各地区からの総代十三名、各会代表者四名を迎え、まず本堂で仏参のあと新総代浦滝甚一さんに住職から総代式章が贈呈されました。その後、門徒会館に場所を移して協議に入り、まず事務局から平成四年の事業報告、続いて、「若はんを偲ぶ会」から中山慶一さん、「夢を育てる会」から有馬文義さん、「夢を語る会」から高島有哲さん、「白鶴会」から菊地れいさん、「花の会」から神子久美さんと、現場からの報告がなされました。

●平成四年事業報告及び決算

事業に関しては、寺の法要、年中行事はほぼ例年通りでしたが、特別行事として雪華院隆弘師の大谷本願納骨及び三回忌法要、高田派本山参拝、法輪寺長女ひとみさんの仏前結婚式、『お寺座サロン』須田開代子と共に、雪ん子のJ・E・T出演等が報告されました。

決算については
布施収入が四十三万円、会費収入が八万円増となり、



もう一つのことを取り決めました。
尚開基五百年
法要の記念事業

おかげで門徒法
要用の両脇掛の
御修復をさせて
もらいました。



の為、当初八百
十二万円の借入
金がありました
が、現在は三百

- 平成五年予算
- ① 仏様の御修復
- ② 集会所の屋根の修理
- ③ 広間の壁及び床の修理
- ④ 離れの手入れ
- ⑤ 装束を入れる行李の新調など

今すぐからかねばならないものも多いのですが、とりあえず、今年は前年度並みの予算とし、出来るだけ予備費をとって事業にまわしていくようにとまとまりました。会費に関しても前年度並みということですが、できるだけ平均化していく方向で進めることになりました。次に、各地区総代について話し合われましたが、お寺と門徒さんの間のパイプ役としても又、門徒さんのご意見を多くとり入れる為にも地区毎の総代はどうしても必要であること、総代会に出席して地区の門徒さんに伝えてもらわねばならないこと等から、総代当人が都合のつかない場合は奥さんに総代として出て頂くこと、女性の総代さんも出してもらうことを取り決めました。



最後に総代側から、善巧寺歴代住職のお墓についての提案があり、現在の場所ではあまりにも立地条件が悪い、門徒の方も、遠方から参拝の方も皆さんが参りし易い場所例えば境内の明教院の石碑の横などに移転したい、費用もかかることではあるが、隆弘師の七回忌をめぐに前向きに進め度い意向が示されました。



太子会 3・13

聖徳太子の遺徳をしのぶ恒例の太子会が三月十三日勤まりました。寺の総代さんや建設関係



の方などが集まれ、太鼓や鉦や銅鑼の鳴り物入りのおつとめがあり、みんなでお焼香をしました。このあと今年初の試みで、「お寺見学」に出発、八尾間名寺の本堂の大きさにため息をつき、極性寺の書庫の本の量の多さに感嘆したことでありました。どちらのお寺でもごていねいな接待を受け、まだまだゆっくりしたい思いを断ち切っておいとしました。そのあと小杉のくぐら館に向い、かものすき焼に舌鼓をうちました。

白鶴会新年会

2・6

白鶴会新年総会は二月六日に開かれました。仏参のあと、集会所で総会。事業・会計報告を承認しました。昨年から仏婦連盟にも加盟し、他のお寺との交流も活発になっていきます。

新会員二人が紹介されました。また、新年会では、可愛らしい四人娘(？)のフラダンスやハッピ姿の花笠踊りなど、芸達者が出揃って、楽しい宴会でありま



した。好天に誘われて出席した八十五才の会員は「引っ込み思案せずこれから楽しいことに何でも参加させてもらいます。今日は来てほんとによかった」と声をはずませていました。

4 年度善巧寺一般会計決算報告

(収 入)	(予算)	(決算)
1. 繰越金	459,544	459,544
2. 布施収入	9,200,000	9,632,230
門徒法要	7,750,000	8,036,000
年中行事	1,000,000	1,121,955
賽 銭	350,000	354,275
雑 収 入	100,000	120,000
3. 会 費	4,000,000	4,080,000
4. 特別懇志	100,000	20,000
5. 雑 収 入	40,456	170,000
(合 計)	13,800,000	14,361,774

(支出)	(予算)	(決算)
1. 人件費	7,440,000	7,440,000
2. 運営費	4,400,000	4,500,016
法要	1,200,000	1,198,423
教化	900,000	895,285
寺務	900,000	928,246
車費	900,000	911,082
会議	200,000	222,610
接待	200,000	224,370
雑費	100,000	120,000
3. 維持費	1,900,000	1,955,624
宗費	850,000	856,731
営繕	890,000	937,063
保険	160,000	161,830
4. 予備費	60,000	400,000
(合計)	13,800,000	14,295,640
	* 差引	+ 66,134

5年度善巧寺一般会計予算

(収 入)	(予算)
1. 繰越金	66,134
2. 布施収入	9,650,000
門徒法要	8,050,000
年中行事	1,120,000
賽 銭	360,000
雑 収 入	120,000
3. 会 費	4,500,000
4. 特別懇志	100,000
5. 雑 収 入	83,866
(合 計)	14,400,000

(支出)		(予算)
1.	人件費	7,440,000
2.	運営費	4,500,000
	要法	1,250,000
	教化	900,000
	寺務	950,000
	車費	900,000
	会議	200,000
	接待	200,000
	雑費	100,000
3.	維持費	1,970,000
	宗教費	850,000
	営繕費	900,000
	保険	220,000
4.	予備費	490,000
(合計)		14,400,000

三月十四日 日曜日 晴

今年も暖冬で庭の花壇でもうクロッカスが蕾を見せている。雪国に住んでいると屋根雪降しに苦労するのが何より大変で、雪の無い年は何年続いても大歓迎である。例年は雪を冠つて姿を見せぬ庭の亀甲石が形のいい姿を見せてくれるのも嬉しい。

今日は十時に法事が予定されている。村の総代の一人で、昨年三月十四日に亡くなった奥さんの一周忌と、御両親の四十二回忌、三十三回忌を本堂でつとめたいと申し越されたのである。本人はたしか明治四十五年生れで、今もかくしゃくと電車で富

山に通っている。ずっと黒部市民病院に奥さんが入院して居られ、御本人は独り浦山の家から病院と会社の両方に通っておられた。子供がなかった。毎日、独りで風呂を焚き、食事を作り、他所目にも甲斐々々しい看病ぐらしが何年も続いたものである。親せき一同集まって賑々しく法要を営み度いとの希望である。三十時本堂に二十名集合する。三奉請、表白、観經、回向と、順序通り進行。



住職日記

法要終つて席を改め宇奈月の
ホテルで食事をする。交盃の
に、東京の兄は明治四十二年生
れ、今でも週一回ゴルフに興じ
て居る事を知る。

孫八人の中、二人
がロンドンの大学
に行つてゐる。繁
盛な一族が想像出
来る。

宴半ば、私達は
帰宅する。ホテル
では婚礼の宴もも
たれてゐるらしく、晴れ着姿の
行き来に逢う。婚礼と云へば、
今頃は孫娘が友人の式の司会を
朝日町でやつてゐる筈である。

わすかの酒に酔つて、午後は書齋に引き込む。新聞を見ている中にうつらうつらして、四時になる。今日から大阪場所だ。ラジオを入れる。老人性の疲れ目のために、テレビの画像は都合が悪く、もっぱらラジオによっている。新大関と新横綱が余裕をもつて勝つ。今場所はこの二人を中心に勝負が進むのだろう。留守の間に植木屋が来て、雪吊り撤去作業をやってくれて庭が明るくなる。

ふるさとの法要の席春の山雪吊りの撤去作業の男たち

寺
ごよみ

六
月

一日 お講・東狐・上野
一五日 野休み落語会

出演 永六輔・入船亭

扇橋・柳家小三

治・柳家小のり

ゲスト 花島世津子

内海好江

一六日 お講・音沢

寺
ごよみ

五
月

一日 お講・音沢
一六日 お講・音沢

初参りの赤ちゃん 受付中

四月二十五日 午前十時

受式料 三千円

お申込みは

電話でお寺まで

六五〇〇五五

美しいチューリップの花がざりにつつまれて、あらゆるものみなすべてのいのちの誕生を祝いする日です。この一年の間に生まれた赤ちゃん、まだ受けていないお子さんは是非お受けください。

ご助成会 今年も善巧寺で

四月一日 午前十時

午後一時半

法話 川崎順正師

十一時半、いつも通り下村のお講づとめがあります。

「ごしよさま、おかみお講などと呼ばれる下三日講の本山御助成会が四月一日午前・午後座つとまります。本如上人のご消息の拝読、法話があります。一日ごゆつくりお参り下さい。」

第十六回 野休み落語会

今年も恒例の「野休み落語会」が六月十五日の午後七時半、善巧寺本堂『お寺座』で開かれます。

出演はおなじみの永六輔さん、柳家小三治、入船亭扇橋の両師匠、それに柳家小のりさん。ゲストはマジックの花鳥世津子さんと漫才の内海好江さん。

好江さんはすっかりおなじみになりましたが、世津子さんも何度か来ていただいています。ほら、「大成功」のあのすてきなお姉さんです。よいお席はお早めにお越しを。会費は今年も二千円です。

六輔 七転八倒

六月十五日 夜七時半

善巧寺『お寺座』

雪ん子劇団へ

入団のおすすめ

昨年の雪ん子劇団は十六回の公演をもち、岐阜やら小松やらへと大変な活躍でした。雪ん子劇団は富山の子供だけの特権、日本にただ一つのユニークな劇団です。小学生時代に豊かな表現力を身につけ、舞台に立つことにより自信をもち、更に自分のことより人のことを考えるという慈悲の心、仏さまの心を感じるといふのはすばらしいことでもあります。どうぞご近所のお子さんにもおすすすめ下さい。月謝は無料です。遊びながら心とことばの勉強をする雪ん子劇団に是非どうぞ。

お経会へのおさそい

昨年九月十七日を機にはじめられた高務哲量先生のお経会は十八才から八十七才まで幅広い層が受講しています。

三月は「如来所以興出世唯説弥陀本願海五濁惡時群生海応信如来如実言」を一時間余りの時間で講釈していただきました。こうして少しずつお正信偈を読んでいます。今からでも遅くありません。

十七日の夜におこし下さい。

会費納入のおねがい

門徒報恩講、三月八日で全部終わらせてもらいました。下立の橋爪正義さん、浦山の大藪国康さんが撮って下さった写真をご紹介します。

尚お参りできなかったお宅へは会費をお納めいただきますようお願い状が届きますから、四月中によりしくお願いいたします。



◀ 師も生徒も熱心に「お経会」



お花見に出かけませんか

「大きい口あけておだんご食べるとこ若はんに撮られたね」と今も話題にのぼるお花見。やっぱり金沢兼六園が見事というところで今年は決行することに。四月十四日、会費は一万円ほど。

合 掌

「私は雪ん子劇団に入って幸せでした。いろいろな所へ公演に行ったり、人々の感謝や尊さを学びました。そして言葉で言い表せないくらい喜びを知りました。」

「私は自分のことより人のことを考えるということではできたかわからないけど、これからはもっと自分より少し人のことを考えるようにしたいと思います。」

「雪ん子にいて嬉しかったことは、劇をし終わって、見てくれた人に拍手をしてももらったことです。みんないい人ばかりでなんだか嬉しくなったり、してよかったと思ったり、心が暖かくなったりしました。」

この三月卒業した雪ん子達の声です。人の暖かさに触れ、感謝し喜び、人のことにも思いを馳せようとしています。羽ばたく子らに惜しみない拍手を。

